

がん微小環境における細胞機能制御因子としての MT1-MMP の役割

越川 直彦

東京大学医科学研究所

MT1-MMP はがん細胞の浸潤・転移の際の組織破壊のみならず、がん細胞と細胞外環境のインターフェースとして働くことで、細胞外からもたらされる様々なシグナルの伝達に関与する。そのため、MT1-MMP が膜上で形成する複合体の詳細を網羅的に調べることは、MT1-MMP による新たな細胞機能制御のメカニズムを解明するための重要な手がかりとなる。本発表では、プロテオミクス解析から見出された新規 MT1-MMP 複合体分子に注目し、MT1-MMP がこれら分子のプロテオリシスを介し、がん細胞の悪性形質の獲得に寄与する可能性を紹介する。